

檜又谷 大スラブ沢報告

(山城)谷川連峰

(日時)10月22日土曜日

(天気)晴れのち曇り

(メンバー)CL 上茂(記録) 小原 松原

(タイム)駐車地点 7:50～檜又谷入渓 7:55 大スラブ沢出合 9:45～4M 断層滝 11:25～登山道 15:25～駐車地点 18:10

10月21日金曜 20時に千葉を出発。関越道渋滞一切なく10時半には湯沢IC下り、土樽自然公園トイレ裏にテントを張り、小宴会。気温はもう10℃以下で寒い、こうなると一気にモチベーションが下がり、そろそろ沢のシーズンもおしまいだなと物悲しい気持ちになる。明日の天気期待してここは飲んで気を紛らそう。

6時起床、天気は良さそうだ。毛渡橋の工事で通行止め箇所があり、う回路の右岸林道から蓬新道登山口方面に向かう。堰堤箇所に2台ほどの駐車スペース有。小さなつり橋から仕事道に入り、檜又谷に入渓。谷は鮮やかな紅葉に囲まれていた。日があれば暖かくなり、広いゴーロの河原を進む。檜又谷には初めて入る。蓬新道と檜又谷は西尾根で隔てられ、本流は武能岳と茂倉岳の稜線に突き上げる。支流がたくさん枝分かれしており、遡行対象となる沢がいくつかあるようだ。荒れたゴーロと時折釜を持った小滝あり、ほとんど足首あたりまでしか濡れずに行ける。今回はアクアステルスで来たのだが、茶色く濡れ滑った苔の岩には全く抵抗なく滑るので岩を選んで慎重に歩いた。最初に出合う一ノ沢はわからず通り過ぎ、二の沢とショボイ流れの前手沢を過ぎ、次に右岸で出合うのが大スラブ沢である。木々に覆われてわかりづらいが上を見ればスラブが見える。

細い沢筋を分け入ると、黒光りした15メートルほどの滝がいきなり現れる。右岸からトラバース気味に取り付く。下から4～5メートルはちょっと細かいが、上はホールド豊富。滝上からスラブ登りが始まり、40メートルほど続く。一旦小滝地帯になり、茶色滑り苔に気を付けながら登る。曲がった残置がある滝はちょっと悪くトラバースを試みたが一步が出ない。残置ピンをスタンスにして直上した。悪いところはお助けを出す程度で登れる。ゆるい傾斜地帯に出ると、この先4～5mの断層になっており、沢の上でこんなに開けちゃっていいのかというぐらい開放感のある気持ちの良い場所なのでしばし休憩。座り込むと対岸の急峻な山肌が色彩艶やかだ。ちょうどいいタイミングだったかな。断層は左のほうに行けば低くなっているのので登れる。

あとはひたすらスラブ登り。全体的に慎重にルートを選べば登れる傾斜だ。

詰めは三俣の真ん中を進みだんだん急な斜面になり、藪もうるさくなる。なるべく避けようと、沢筋に入る。大スラブの頭を目指すのだがよくわからない。ギザギザの岩稜尾根と頭らしきピークの鞍部を目指してみたが、笹藪とシャクナゲに覆われ結構苦戦。ひょっこり岩峰に出ると藪地帯を抜けたようで、左の尾根との鞍部がちょっと土砂が崩れたような斜面であり、それを登れば楽に尾根に取り付くことができた。痩せ尾根だがもう藪は低いので歩きやすくなったが、西尾根に合流してそこから登山道までまだ遠く感じた。眺めがよいのでまあ気持ちの良い尾根歩きです。

登山道に出てほっと一息。蓬ヒュッテにはテントが5～6張。この時期の縦走も紅葉目当てに良さそうです。登山道をひたすら下り途中ヘッテンのお世話になりましたが無事下山。岩の湯でひと風呂浴びたら、もう満足してどこにも立ち寄らずまっすぐ帰りました。お疲れ様でした。



檜又谷 入溪



小滝・魚影あり



檜又谷



右岸・大スラブ沢



大スラブ沢出合



15m滝



15m滝落口



対岸に滝沢



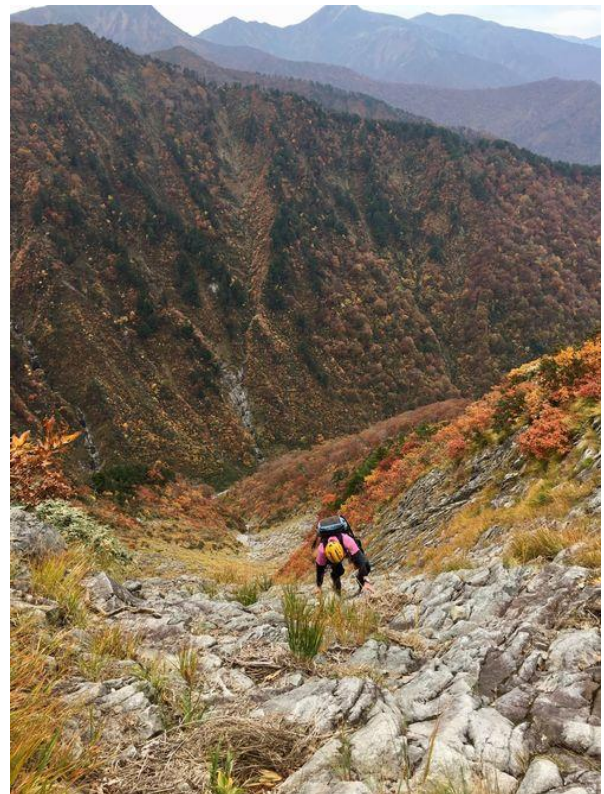
ヌメリを避けながら



4～5m断層前で休憩



沢の名の通りずっとスラブ



ひたすら登る



西尾根を振り返る



登山道到着